

- 岡山大学から世界へ、グローバルに活躍する卒業生
倉田 良純さん 双日株式会社 執行役員
自動車本部長
- きらり岡大生 高井 智光 経済学部経済学科4年
- News & Topics 大学の動き／研究・臨床成果
- 編集後記
- 岡山大学生協 新グッズご紹介

女性が輝く岡山大学へ 男女共同参画を推進する

ポジティブ・アクション

特集
Special Section



リニューアルオープンした中央図書館

ウーマン・テニュア・トラック (WTT) 教員制

質の高い女性教員の雇用促進・育成を目的に、岡山大学が2009年度に構築した人事システム。受け入れる研究者と科において自立した研究者としての実績を積み、採用基準に達していると評価された者をテニュア教員として採用している。WTT教員にはそれぞれにメンター教員を配置。必要に応じて研究支援者を採用するなど、ライフイベントに配慮したサポート体制を整え、女性教員が持てる資質・能力を教育・研究に遺憾なく発揮できるように努めている。

現在までに19名のWTT教員を雇用し、その内10名が審査を経て、テニュア教員に採用された。また、昨年度、WTT教員の研究内容・成果等を紹介する女性教員シリーズ集「WTT教員編」を作成。共同研究立ち上げの一助となるよう、大学の産学官連携機構とも連携し、学内外へ広報活動を行っている。

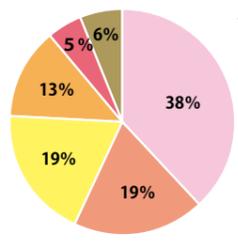


Support System 研究スキルアップ講座

若手研究者を対象に、研究に必要な知識の修得や研究能力の向上、研究活動の促進を目的として実施。これまで外部資金獲得や英語論文の書き方などのスキルアップを図ってきた。

研究支援員制度

出産・育児・介護などの理由で研究時間の確保が困難な教員・非常勤研究員を対象に研究支援員を配置。実験補助や研究データ分析、文献調査などの研究活動を支援している。2011年度以降、男性も利用できるよう制度を改正した。



【研究サポート体制】 女性サポート相談室

仕事と育児・介護の両立のための環境整備の一環として、2010年1月に開設。両立に関わるさまざまな悩みの受け入れ先として、カウンセリング、子育てのための情報提供を行っている。相談者は延べ500名を越え、子育てをしながら働く女性たちの情報交換の場となっている。「キャリアカフェ」は20回開催、約300名が参加した。

Continuation

【持続性】

～リケジョへの誘い～ おかやまサイエンス・トーク&トライアル

WTT教員・大学院生らが県内及び近隣の中学校・高校に出向き、理系の魅力を伝えるサイエンス・トークや、研究内容の一端を体験できるサイエンス・トライアルを開催。ディスカッションしながらサイエンスの魅力を伝え、女子中高生の理系分野に対する興味・関心を喚起するとともに、理系分野への進路選択を支援している。



※2014年度、独立行政法人科学技術振興機構「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に採択

保育施設の設置・充実

次世代育成支援室が中心となり、保育体制の整備・充実、研究と家庭の両立支援体制の利用を推進。子育てしやすい環境を目指している。子育て支援企業として、次世代認定マーク「新くるみん」を取得した。



女性が輝く岡山大学へ

特集 Special Section

男女共同参画を推進する“ポジティブ・アクション”

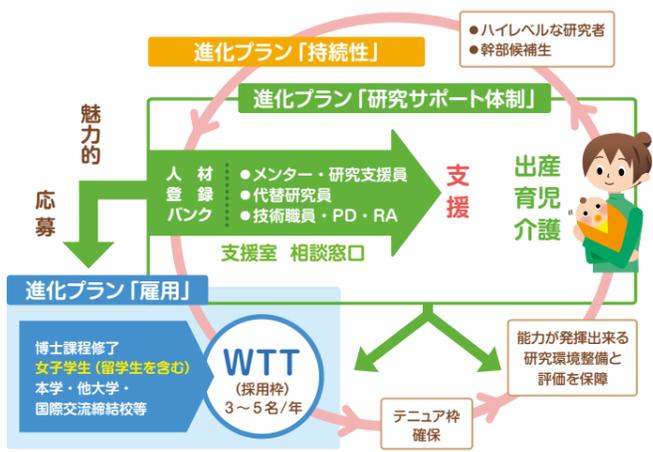
岡山大学では2011年度からの5年間における「男女共同参画推進基本計画」を策定し、雇用・研究サポート体制・持続性の3本柱を軸に男女共同参画を進めている。研究環境を整備し、ライフイベントに配慮した支援を行いながら女性研究者の雇用を促進する「ウーマン・テニュア・トラック (WTT) 教員制」や、子育てや仕事などの悩みに応じる「女性サポート相談室」など、その具体的な取り組みを紹介する。

基本理念

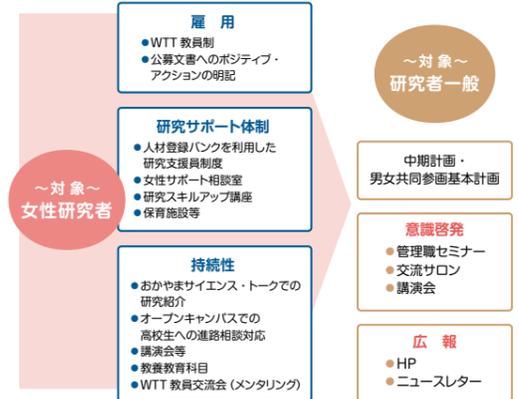
岡山大学は高度な知の創成と的確な知の継承を通じて、個人が性別にかかわらず能力を発揮し活躍することができる場を築くとともに、男女共同参画社会の実現と人類社会の発展に貢献することを目指す。

基本方針

- 1 教育・研究および就労における男女の均等な機会の保障
- 2 教育・研究および就労と生活との両立支援
- 3 男女共同参画の視点に立った人材育成
- 4 男女共同参画に関する意識改革
- 5 男女共同参画に関する取組における地域社会との連携



岡山大学における男女共同参画の取り組み



岡山大学ではこれまでダイバーシティ推進本部男女共同参画室が中心となって、WTT教員制による女性教員雇用促進、女性研究者サポート体制整備、意識啓発・広報活動などに取り組んできた。こうした取り組みが浸透し、女性教員の比率は徐々に高まっているが、数値目標の達成は道半ばの状況。女性教員の上位職・管理職への積極的登用も喫緊の課題である。男女共同参画社会の実現に向けては数値枠設定や支援のための基盤整備といったポジティブ・アクションに加え、組織や個人の意識改革も重要。岡山大学でも男女が組織の対等なパートナーとして参画の機会を確保し、それぞれの能力を最大限に発揮できるように、制度や慣行のあり方を積極的に見直していきたい。

企画・総務担当理事 (ダイバーシティ推進本部長) 阿部 宏史



さまざまなことに興味を持ち、何でも挑戦 光合成の研究からサイエンス教室まで



[大学院自然科学研究科 助教]
西村 美保
(第I期 WTT 教員)

理系を選択

植物が浴びる光の強さと光合成の関連などを研究している西村助教。意外にも「生物はあまり好きではなかった。だからこそ面白さを見つけたかったのかも」と振り返る。小学生の頃は天体観測に夢中に。休日には倉敷科学センター（倉敷市）で、プラネタリウム観賞や科学実験を楽しんだ。中学校では、国語の先生の影響で哲学に関心を寄せた。文系、理系を問わず、身近なさまざまなものに興味を惹かれた。現在につながる最初の分かれ道となったのが、高校時代の文理選択。「文系に比べて理系の研究には専門の設

備が必要。大学にはたくさんの機器もある。せっかく進学するのなら理系にしてみよう。迷いはなかった。

楽しいことは全部やる

大学院時代は、光合成を研究する傍ら、非常勤講師として高校の授業を手伝った。週1回、4時間、生徒の課題研究を担当。大学で学んだ知識を生かしたアドバイスも行ったが、相手は年齢に近い高校生。「教えるというよりも、一緒に研究に打ち込んだという方が正しい」と笑う。自発的に研究に取り組み高校生の姿に、刺激も受けた。また、一般向けのサイエンス教室の運営にも協力。新聞に掲載されていた「サイエンスカフェ」の記事を見つけ、「ボランティアとして手伝いたい」と



NISHIMURA Miho (32歳)
▶1982年 岡山県総社市生まれ
▶2005年 岡山大学理学部生物学科 卒業
▶2007年 岡山大学大学院自然科学研究科博士前期課程 生物科学専攻 修了
▶2008年 日本学術振興会 特別研究員(DC2)
▶2010年 岡山大学大学院自然科学研究科博士後期課程 バイオサイエンス専攻 修了
岡山大学大学院自然科学研究科助教(特任)
▶2013年 岡山大学大学院自然科学研究科助教

心強い同期の存在

博士課程の最終年度。研究者としての道を進むか迷っていたとき、岡山大学のWTT教員の募集を知った。背中を押されるように応募を決め、2010年にWTT制の一期生として採用された。その後の歩みを決める二度目の大きな転機となった。「同じ女性研究者の立場で悩みを共有できる同期の存在が心強かった。大きく成長できた期間だった」。WTT期間の3年間をこう総括する。現在も光合成の研究にまい進する日々。昨年から遺伝子を組み換えた緑藻の光合成機構についての実験を新たに始めている。「基礎研究を通して、食料や環境問題の解決といった多くの人に役立つ発見をしていきたい」。さらなる研究の発展に向け、意欲を燃や

研究の可能性

門田助教の専門は、作物の品種改良につながる育種学。サツマイモやイチゴ、ダイズなど遺伝が複雑でこれまで解明が進んでいなかった作物を研究している。育種学を専攻したきっかけは京都大学時代の恩師の言葉。「農業は、人類を救う」と大きな夢を語る姿に胸を打たれた。「自分もすごいことができるかもしれない。研究って面白そう」と、恩師が指導する研究室に進んだ。大学院1年の時、ある特徴的なDNA配列に注目し、短時間で遺伝子を解析する技術を開発。技術移転により、他の研究機関でも次々と利用された。「これまでの殻を破るような技術を自ら手掛けることができた。研究が持つ可能性の大きさを実感した」と振り返る。

アメリカへ留学

研究の基礎がつけられたのは、米国への2年間の留学経験。米国では大学院生でも一人前の研究者とみなされ、常に結果が求められた。教授からも「インパクトの高い研究成果を挙げなさい」と発破を掛けられたとい

遺伝が複雑な作物に挑戦 “人類を救う”成果を目指す

[大学院環境生命科学研究科 助教]
門田 有希
(第III期 WTT 教員)



MONDEN Yuki (30歳)
▶1985年 広島県府中市生まれ
▶2007年 京都大学農学部資源生物科学科 卒業
▶2009年 京都大学大学院農学研究科修士課程農学専攻 修了
日本学術振興会 特別研究員(DC1)
▶2012年 京都大学大学院農学研究科博士後期課程農学専攻 修了
岡山大学大学院環境生命科学研究科 助教(特任)
▶2015年 岡山大学大学院環境生命科学研究科 助教

う。言葉の壁もありプレッシャーは大きかったものの、一旗揚げよう。と世界中から集まった学生たちの中、刺激を受けながら最先端の研究に携わったことは今につながる財産となった。留学中の支えになったのがハウスシェアの友人たち。米国、韓国、台湾の学生と生活を共にした。工学や社会文化と分野は違っても、国を離れて研究を行う立場は同じ。行き詰まったときには、友人たちが打ち込む姿に「自分も頑張ろう」と元気づけられた。休みの日には、互いに母国の料理を振る舞ったり、旅行に出かけたりとリフレッシュにもつながった。

心強い支え

2012年4月、岡山大学のWTT教員制で採用され、本格的な研究者としてスタートを切った。当時を「十分な資金と研究スペースが整備さ

れていたことに驚いた」と振り返る。ただ、学生とは異なる立場で担う研究や、初めて行う教育活動には戸惑った。そんな時に心強い支えとなったのが、メンター教員の存在だった。研究や教育、学生指導について、普段は見守ってくれつつも、困った時には的確にアドバイスしてくれた。

2015年4月には、研究成果や積極的な教育活動が評価され、テニユア教員に。現在は、膨大な遺伝子データを統計学の手法とスーパーコンピュータを用いて解析。より良い品種改良(病害に強い、おいしい、栄養価が高い)や品種を特定するためのDNAマーカーの開発を進めている。「育種学は品種改良だけでなく、既存品種を守ることもつながる」と門田助教。学生時代に志した「人類を救う」成果を追



双日株式会社 執行役員 自動車本部長 ◆岡山大学法文学部経済学科卒

倉田 良純

KURATA Yoshizumi

現地にとけ込み、仕事をつくる総合商社生活。
国を豊かにし、生活水準を向上する使命を胸に、
自動車分野で世界を飛び回る。

- ▶くらた よしずみ (62歳)
- 1953年 三重県生まれ
- 1975年 岡山大学法文学部(現経済学部)卒
日商岩井株式会社に入社
- 1980年 ケニア・ナイロビ事務所 駐在
- 1988年 サウジアラビア Bakhshab Brothers Co., Ltd. 出向
- 1997年 Mitsubishi Motors Philippines Corporation Senior Executive Vice President
- 2004年 ニチメン株式会社と日商岩井株式会社合併により
双日株式会社に商号変更
自動車第二部長
- 2005年 自動車第一部長
- 2007年 Hyundai Motor (Thailand) Co., Ltd. Director President
- 2012年 執行役員 機械部門長補佐 兼 自動車本部長
- 2015年 執行役員 自動車本部長



タイで立ち上げた会社の社長に就任した倉田さん(左から6人目)▶

での生活は困ることもありませんが、住めば都です。「今住んでいる場所が世界で一番」と考えて生活すると、現地の人との交流も楽しく、その国のことをどんどん好きになりました。

卓球を契機に築けた信頼

海外の赴任先はケニアでの駐在を皮切りに、これまでに出向を含めてサウジアラビア、フィリピン、タイで勤務。現在は本社で自動車本部長として自動車分野を取りまとめ、さらなる事業拡大にむけて取り組んでいます。

大学時代は「卓球学部卓球学科卒」と言っても過言ではないほど、卓球部で部活漬けの毎日。家族も一緒だったケニアやサウジアラビアには卓球台を持ち込みました。卓球を契機とした仕事以外の「オフ」での付き合いが、海外の人たちとの距離を縮め、信頼関係を築き上げる一つのきっかけになったと思います。

変化を見据える

入社当時は現代のように情報通信機器はありません。日本と海外をつなぎ、物流を支える粋な仕事だと感じていました。しかし、FAXやインターネットが普及し、簡単に海外の情報が手に入るようになると状況は一変しました。国内メーカーが自ら世界の企業とやりとりするため、駐在員も不要となり、「商社冬の時代」に突入。改めて我々の価値は何かを問いたずら期間でした。

また、現地ではさまざまなことが起こります。ケニアでのクーデター、イラクのクウェート侵襲、湾岸戦争、アジア通貨危機など、国際情勢や経済情勢で苦労や悩みはしばしば。でも、言い換えれば時代の変化を見据えながら、自分でクリエイトしていく力を発揮できる場でもあります。

次の世代へ

いかに現地の人たちの中にとけ込んでいくことができるか。会話のきっかけをどう持つか。お互いが顔を合わせて話をし、信頼関係を築く「コミュニケーション」はいつの時代も変わらずに大切なことです。

■商社としての使命
現地のために、全力で。海外の赴任地で、いつも心掛けてきたことのひとつです。
総合商社の仕事は、サービスを含めたさまざまな商品の輸出入をはじめ、現地で製造や販売、投資など多岐にわたります。現地で稼いだ収益は税金として還元し、その国を豊かにする使命も背負っています。さまざまな活動を通じて雇用をつくり、ひいては現地の人たちの生活水準を向上していく。そういった商社の仕事にやりがいを感じ、使命感を持って働いてきました。

■変化を見据える
商社を就職先に選んだのは、日商岩井株式会社(現・双日株式会社)で働いていたゼミの卒業生から話を聞いて「海外でいろいろな仕事にチャレンジできて面白そうだ」と思ったから。入社するまで海外には一度も行ったことがありませんでした。

最近では物流を担うだけでなく、自ら海外で事業化に取り組んだり、完成品の販売や部品の仕入れなどを行ったりと、より企業や消費者に近い場所に入り込んでいくように商社の活動が変化しています。タイでは当社が設立した韓国車の輸入販売を手掛ける会社の初代社長に就任。経済成長が著しく、継続して自動車需要の拡大が見込まれる地域での事業強化に取り組んでいます。



世界を駆ける商社マンに

sources of wealth by connecting and people in a sp

■双日株式会社
所在地：東京都千代田区内幸町
事業内容：総合商社

約50の国・地域で約410社のグループ会社によって事業を展開する総合商社。自動車やプラント、エネルギーや金属資源、化学品、食料資源など各分野で、物品の販売や貿易業をはじめ、各種製品の製造販売、各種プロジェクトの企画・調整、投資など多角的な事業を行う。



高井智光

経済学部経済学科4年

TAKAI TOMOMITSU



多様な文化を尊重しつつ、日本の生活習慣に慣れてもらおう

研究、スポーツ、趣味、特技...。学内外のさまざまな場面で活躍する岡大生たち。そんなきらりと光る学生を、同じ学生の目線から紹介する。



▲アメリカ留学にて

岡山大学津島キャンパスにある桑の木留学生宿舎。高井智光さん（経済学部経済学科）は留学生の日常生活や勉強などを支援する「桑の木RA（レジデント・アシスタント）」として留学生と同じ屋根の下で生活している。桑の木RAの取り組みが始まったのは2014年10月。高井さんがアメリカ留学から帰国してからも多くのことだった。留学時、高井さんも寮に住み、現地のRAのサポートを受けた。RAとの交流が大きな支えになったという高井さんは「英語力も持続できる」という思いもあったという。

初期メンバーとして、スタート当初は手探りの連続だった。寮生活の明確なルールや規則があったわけではなく、問題が発生するたびにRAメンバーで会議を開いたり、担当教員と打ち合わせをしたりして対応してきた。留学生は原則1年間しか寮に住むことができない。退寮後、日常生活などで困らぬよう、文化の多様性を尊重しながらも日本の生活習慣に少しでも慣れてほしいと考える日々。大変さもあるが、日本語の勉強を手伝ったり、パーティを企画したりと交流を重ねる高井さんは「ここでの生活では違う価値観、文化に毎日触れられ、刺激があり、とても充実している」と笑顔を見せる。



▲インドのインターン先のオフィスで

初めての海外となったタイやカンボジアでは、国連JICA、NGOで働く日本人たちにも出会った。彼らだけでなく、厳しい現実を目の当たりにしながらも実践している姿に感銘を受け、「世界で働きたい」という思いがよりはつきりと、強固たるものになったという高井さん。「世界を駆け回り、日本と世界をつなぐ仕事をしたい」。高井さんの次なる夢は世界へと続いていく。

チャンスをつかみ、前に進む

「大学生になったら留学したい」。学生の頃から、そう夢見てきた。だが、留学するにはお金がかかるかと委縮する気持ちもあり、なかなか行動に移せなかった。そんな時、岡山大学国際センター（現・グローバル・パートナーズ）の先生から「チャンスはいつでも転がっている。常に情報を収集し、いかに行動するか」と声を掛けられた。その一言がきっかけとなり、情報収集に力を入れた。助成制度などを活用すればよいと知り、気持ちも動きも軽くなったという。

大学2年生の時に同センターのプログラムに参加して訪れたタイやカンボジアを皮切りに、これまでにアメリカ、パレスチナ、シンガポール、中国、韓国、インドに足を運んだ。アメリカには岡山大学短期留学プログラム（EPOK）を利用して3年生の夏から1年間留学。インドへは経済産業省の国際即戦力インターンシップ事業に参加し、現地企業で3カ月間、就労体験をした。

桑の木RA（レジデント・アシスタント）

桑の木留学生宿舎で留学生と一緒に寮生活を送りながら、生活や交流が円滑に行われるような寮生の自治、管理の補助を担っている。現在、高井さんを含め9人の日本人学生がRAとして、留学生の日常的なトラブル解決、交流イベントの企画・運営などを通じて寮生活や留学生活が有意義なものになるようにサポート。留学経験のあるメンバーが多く、留学生との交流が盛んだ。岡山にいながら留学体験を味わえる場所でもあることから、留学に向けた準備期間としてRAになる学生もいる。



岡山大学のニュース&トピックスおよび最新情報は岡山大学のホームページからご覧いただけます。

<http://www.okayama-u.ac.jp>

3 March

6日 研究推進産学官連携機構が「第3回岡山大学知財フォーラム2014」を開催

13日 平成26年度「学生文化奨励賞」学生スポーツ賞授与式を開催。個人部117人、団体の部21団体が受賞

18日 大学院自然科学研究科博士後期課程の佐藤将也さんと博士前期課程の友廣亮介さんが「平成26年度「科賞」を受賞

18日 文部科学省の吉田光成企画官を招き、役員招聘特別講演会を開催

19日 地域総合研究センターが国際シンポジウム「グローバル実践型教育プログラムの構築に向けて」を開催

20日 個別学力検査等後期日程の合格者を発表

25日 平成26年度学位記授与式を挙行



平成26年度学位記授与式を岡山県総合グラウンド体育館（桃太郎アリーナ）で行い、学部生・大学院生ら計3,162人が新たな一歩を踏み出した。

26日 文部科学省の平成27年度感染症研究国際展開戦略プログラムに採択

27日 定例記者発表を開催

30日 1人乗りの超小型電気自動車（EV）コムスを導入。新たな交通手段の一つとして活用するため、岡山市の社会実験と連携して取り組みを進める



30日 URA執務室らが革新的な新規熱電交換デバイスを開発する「第19回フューチャーセッション」を開催

4 April

1日 附属中央図書館がリニューアルオープン。本館2、3階の一部を改修し、岡山県産のヒノキや備前焼のタイルを使用した岡山らしさあふれる空間がオープンした。

1日 英国にロンドン事務所を開所

4日 岡山大学病院が世界初の脳死・生体肺を同時に移植する「ハイブリッド移植」に成功

8日 平成27年度岡山大学入学式・大学院入学式を開催。岡山大学・大学院の入学式が桃太郎アリーナで開かれ、学部・大学院生ら計3,496人が入学した。



8日 トルコのトルグットオザル大 学副学長、医学部長が森田潔学 長を表敬訪問

9日 徳永こいのぼりが特別仕様のこいのぼりを寄贈



14日 研究推進産学官連携機構が「第48回岡大サイエンスカフェ」を開催

15日 異分野融合先端研究コア（RCS）の佐藤伸准教授が平成27年度科学技術分野の文部科学大臣表彰「若手科学者賞」を受賞

15日 自然科学研究科が「第1回ナノフロンティアナノマテリアルセミナー」を開催

22日 岡山大学とベトナム・フエ大学の修士課程共同プログラム「岡山大学・フエ大学院特別コース」の第7期生が「里親・企業と対面



23日 定例記者発表を開催

5 May

13日 機能性ナノ材料の最先端研究や広範囲な異分野融合から革新的な新技術創出をを目指す「ナノフロンティアナノマテリアルシンポジウム」を開催

13日 アジア最大のバイオ展／国際会議「ライフサイエンスワールド2015（第12回アカデミックフォーラム）」に出席

15日 地域総合研究センターが地方創生&学都シンポジウム「最新のフロンティアまちづくりを岡山の地方創生に活かす」を開催

19日 海外協定校の台湾開南大学の学長らが訪れ、森田潔学長らと懇談



19日 コカコーラウエストがスポーツ教育支援金を寄贈

21日 定例記者発表を開催

21日 卓球部が「第66回中国学生卓球選手権春季大会」において、男子団体戦で優勝、女子団体戦で3位入賞

23日 法科大学院弁護士研修センターが「岡山権利擁護研究会」を設立

6 June

1日 心臓の穴を閉じて頭痛を治す国内初の治療を開始

3日 岡山大学経済学会が講演会「日本経済から見た世界経済、世界経済から見た日本経済」を開催

3日 植物科学研究棟が竣工。植物科学研究棟は旧管理棟（2階建て）を改築したもので、3階建て（延べ2,361平方メートル）にスケールアップ。資源植物科学研究所が保有する最先端研究機器を集約配置して、植物育成室や共同研究スペース等を整備・充実させた。



研究・臨床成果

■大学院医歯薬学総合研究科の井上剛准教授、佐田孝大学院生らの研究グループは、既存の治療薬が効かないてんかん患者に効くケトン食療法の仕組みを解明。ケトン食療法に基づくてんかん治療薬が開発可能であることを示した。アメリカの科学振興協会（AAS）発行の「Science」に掲載。（3月・臨時発表）

■大学院医歯薬学総合研究科の高橋賢助教、成瀬恵治教授らの研究グループは、ラット心筋細胞を用いた実験によって、心臓細胞のイオンチャネル「TRPM2」の発現を抑制すると、細胞の活性を維持して心筋梗塞の進行を抑えられること明らかにした。米科学誌「PLoS ONE」に掲載。（4月・定例発表）

■大学院自然科学研究科の沈建仁教授、中国科学院化学研究所、ドイツベルリン自由大学の共同研究グループは、光合成水分解反応の触媒であるMn₂Ca₂クラスターと類似のモデル化合物を人工的に合成することに成功した。アメリカの科学振興協会（AAS）発行の「Science」に掲載。（5月・臨時発表）

■大学院自然科学研究科の吉井大志准教授、ドイツのヴュルツブルク大学の国際共同研究グループは、キロシヨウジウバエを用いて、時差ほけ回復に与する脳神経細胞を探索。約14個の神経細胞が時差ほけの回復に重要であることを明らかにした。米科学誌「Journal of Neuroscience」に掲載。（5月・臨時発表）

■大学院教育学研究科の石川彰彦准教授、原田太郎講師らの研究グループは、岡山県下に大量に保有されている「中和シユベルトマナイト」を利用した農作物への放射能移行抑制技術を開発。放射能汚染を受けた土壌でシユベルトマナイトを施用して農作物栽培を行うい、放射性セシウムの作物への移行を半減させることを明らかにした。（5月・定例発表）

■大学院医歯薬学総合研究科の森山芳則教授、表弘志准教授、外川奈津子大学院生、自然生命科学研究支援センターの樹下成信助教らの研究グループは、本学が開発した膜タンパク質の生産システムを用いて尿酸の新規排出タンパク質を発見。各臓器における発現箇所を明らかにした。「American Journal of Cell Physiology」に掲載。（5月・定例発表）

■大学院自然科学研究科の沈建仁教授、菅倫寛助教と中国科学院植物学研究所の共同研究グループは、光合成で光エネルギーを高効率に吸収し、水からの電子を利用して二酸化炭素を糖に変換するために必要な還元力を作り出している光化学系I複合体の構造をX線結晶構造解析法で解析。2・8・Å分解能で立体構造を明らかにした。アメリカの科学振興協会（AAS）発行の「Science」に掲載。（5月・臨時発表）

今年度、いちよう並木の編集長をお引き受けしました環境生命科学研究所の三浦です。よろしくお願ひいたします。

77号は、女性教員雇用促進のためのWTT教員制、女性サポート相談室をはじめとする女性研究者サポート体制など岡山大学の取り組みを特集。WTT制で採用された女性研究者を取り上げました。また、「グローバルに活躍する卒業生」として総合商社勤務のOB、「きらり岡大生」では桑の木RA（レジデント・アシスタント）を紹介。大学の動きとして3、6月の主な行事等をまとめています。このように広報誌「いちよう並木」では現在注目されている教職員・学生について、また社会で活躍されている卒業生の情報等を発信しています。

現在、大学では改革がソフト・ハードの両面で進行中です。「いちよう並木」においても、その役割を整理し、誌面等の刷新を図る必要が出てくるかもしれない。形はともあれ、広報誌としての重要性は変わらないでしょう。手に取っていただきやすい誌面作りに向け、学内外を問わずご意見を賜りますようお願いいたします。

環境生命科学研究所教授 三浦 健志

編集後記



今春、岡山大学の広報体制が新しくなりました。

その名も「広報・情報戦略室」。教育・研究・社会貢献等の情報発信に加え、情報の収集や分析、提案などを行います。広報戦略本部の設置や、英語版ウェブサイトをリニューアルによる情報発信機能の強化など、戦略的に取り組んでいます。

いちよう並木77号は当室にとって初めての発行です。表紙写真は4月にリニューアルオープンした中央図書館で撮影しました。撮影したエリアは2階のサルトルフロレスタ（スペイン語で「飛翔の森」）。岡山県産のヒノキを使用しており、落ち着いた空間に仕上がっています。ヒノキの香り漂う空間で行われる知の営みや交流の様子を写真に収めました。

在学生紹介で登場した「RA（レジデント・アシスタント）」初めて聞いたという方もいるのではないのでしょうか。RAは、国内外の大学でも導入されています。本学のグローバル化に向けて、学生たちの活躍が期待されます。

今後、魅力的な誌面作りを展開し、岡山大学の研究や教育活動などを広く発信してきたいと思っております。ご意見、ご感想を賜りますようお願いいたします。

広報・情報戦略室 編集担当

岡山大学生協同組合



とコラボ

ジーンズ製のエコバッグ



▲扇子（2種）

▲学章バッグ

岡山大学の最新グッズ続々。岡山大学生協では、「コミュニケーションシンボルをあしらったオリジナルコラボグッズの企画・開発に取り組んでいる。4年目を迎えた今年も、魅力的なグッズが登場した。

できあがったばかりの扇子（2種各756円）はこの夏、一押し。空や海のような水色をベースに、OUBLUEで「OKAYAMA」を表現し、裏面には「コミュニケーションシンボル」を配置した。もう一つは大胆な図柄と「コミュニケーションシンボル」でキリッと粋なデザインに仕上げた。ビジネスシーンや普段使いでも、暑い夏に活躍すること間違いなし。

2014~2015年

新グッズご紹介

岡山が誇るジーンズ生地を使ったエコバッグ（1,404円）は発売開始以降、人気上位をマークし続ける。倉敷のジーンズメーカーと共同開発し、ジーンズの作成過程で出る端材を使って製作した。学生の意見を取り入れ、A4サイズのノートや書類がぴったり。側面についているジーンズポケットには、スマホやペンが収納できる。使い続けることでジーンズの風合い変化も楽しめそう。



フリクションノックピズ▲

シール3点セット▶

その他コミュニケーションシンボルを使ったグッズはこちら

- ▽タオルハンカチ 540円
- ▽USBフラッシュメモリ (2GB) 1,728円
- ▽日本製ポロシャツ (2種/4サイズ) 2,376円
- ▽日本製Tシャツ (2種/4サイズ) 4,104円
- ▽パーカー (3種/4サイズ) 4,320円
- ▽合格御守り鉛筆 216円
- ▽木製ペントレイ 756円
- ▽木製トレイ 972円

商品に関するお問い合わせは
岡山大学生協同組合ピーチショップ ☎ 086-251-7204 まで

広告

